

英検 TEAP を EAP 能力の測定に使用する可能性の検証 —Reading & Writing クラス学生の EAP 能力との相関把握—

<概要>

本研究では、TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）が大学の Reading & Writing クラスで目標としている EAP 能力の測定に有効であるかを検討した。EAP Reading & Writing クラス履修者（29名）を対象に実施した結果、Reading スコアは、A2 と B1 がほぼ同数で代表的なレベルであった。TEAP が B1 レベル以上で授業内テストを受けた 14 名のうち 11 名は平均点以上を取っていたため、TEAP Reading スコアは、大学での EAP Reading と Writing の能力を示す可能性が示唆された。TEAP スコアと EAP 能力の相関関係のさらなる検証が待たれる。

<はじめに>

日本の学士課程での English for Academic Purposes (EAP) 教育の重要性が高まっている（一般社団法人大学英語教育学会 EAP 調査研究特別委員会, 2018）。EAP 能力の測定については、現在は文脈に応じて様々な評価方法が用いられている。一方で、大学や大学院において継続して使用できる汎用性のある EAP 能力の測定ツールがあれば、プレイACEMENTから授業の効果測定まで多くの場面において有用であろう。日本英語検定協会によると、TEAP は「大学で学習・研究する際に必要とされるアカデミックな場面での英語運用力（英語で資料や文献を読む、英語で講義を受ける、英語で意見を述べる、英語で文章を書くなど）を

より正確に測定するテスト」であり、「大学教育で遭遇する語彙・場面・分野を想定した設定・内容となっており、アカデミックな英語—English for Academic Purposes—に特化している。」また、大学入試において採用している大学も多いと報告されている。TEAP を基準とした TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）が、大学教育において EAP 能力を測定するテストとして活用できるかについて今後の研究が期待されている。

<研究課題>

本研究では、TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）が大学の Reading & Writing クラスで目標としている EAP 能力の測定に有効であるかを検証する。

<研究方法>

2022年12月に私立理系大学において筆者が担当している2年生対象の必修科目 Reading & Writing の履修者を対象に、コンピューターを使って、TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）を実施した。当該テストについては、成績に加味することなく自身の EAP 能力把握のためという目的で行った。参加者は29名で、2022年4月から継続して筆者が担当している EAP を中心とした Reading & Writing のクラスを受講していた。習熟度レベルでは一番下のクラスであった。テスト実施後にテストについてのアンケートを実施し、26名からの回答を得た。学生には後日 TEAP プレイACEMENT

テスト（仮称）のスコアと CEFR レベルをフィードバックとして渡した。

授業では、アカデミックなトピックを扱った Reading 中心の教科書を使用し、読解の演習、教科書に出てきた語彙のテストのほか、パラグラフライティングの復習、エッセイの作成も取り入れた。また、研究活動にも必要となる要約の方法を明示的に教授し、要約の添削などの活動も行った。学期末に、TEAP プレイスメントテスト（仮称）を行ったが、その前週には授業で学んだことを試すテストとして語彙、文章の読解、要約のテストを行っている。要約は Reading と Writing の能力を測ることができるタスクである（山西・大野, 2017 など）ため、テストに取り入れた。本研究では、この「授業内テスト」結果を EAP 能力の指標として使った。なお、本授業は形成的評価を行っていたため、当該授業内テストは合計 15 ポイントで、内訳は語彙 10 問 5 点、読解 6 問 3 点、要約（650 語程度の文章を 100 ワード程度にするタスク 1 つ）7 点であった。

<結果と考察>

テスト結果

TEAP Reading は、A2（13 名）と B1（14 名）がほぼ同数で、この 2 つのレベルに学生が集中している。一方、Listening は A2 が 25 名であった。TEAP スコアと授業内テストスコアを表 1 に示す。なお、Listening については、検証を行った授業では対象としないため掲載していない。

表 1 テスト結果

学生	Reading スコア	Reading CEFR	授業内 テスト
S1*	45	A2	10
S2	43	A2	10
S3	45	A2	8
S4	63	B1	11
S5	49	A2	8
S6	45	A2	9
S7	54	B1	10
S8	71	B2	9
S9	65	B1	8
S10	58	B1	12
S11	33	A1	8
S12	56	B1	11
S13	51	A2	8
S14	60	B1	11
S15	38	A2	9
S16	68	B1	-
S17	35	A2	8
S18	63	B1	12
S19	58	B1	9
S20	49	A2	10
S21	58	B1	11
S22	45	A2	8
S23	49	A2	7
S24	56	B1	12
S25	60	B1	11
S26	58	B1	12
S27	63	B1	11
S28	49	A2	14
S29	51	A2	8
<i>M</i>	53.03	-	9.82
<i>SD</i>	9.61	-	1.74

*S は学生を示す。

授業内テストの結果（平均 9.82 点）と合

わせて見ると、Reading B1 レベル以上の 15 名のうち 1 名は授業内テスト未受験者、3 名が 9 点以下であったが、そのほか 11 名は平均点以上である 10 点以上を取っていたため、TEAP Reading のスコアは、大学で教えている EAP Reading と Writing の能力をある程度示す可能性が示唆された。一方、A2 レベルであっても平均点以上の学生が 4 名いるため、本稿では両テストについてはあくまでも大まかな傾向が把握できると述べるにとどまる。その理由としては、授業内テストは EAP 能力を反映する一方、扱う語彙は授業で読んだ文章から多く出題されるなど、各学生の授業への取り組みの度合いによってスコアが左右する可能性が否めないためである。

アンケート結果

参加者のうち 26 名がアンケートに回答した。主な結果を以下に示す。なお、結果および考察においては本授業と関連しない Listening のみに関わるコメントは参考にしていない。

表 2 Q. 本試験の出題内容とレベルは大学の授業に通じる内容であると思いますか？

	回答数
まさに通じる内容だと思う	11
一部通じる内容だと思う	12
あまり通じる内容ではない	2
全く通じる内容ではない	1
総計	26

TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）の出題内容とレベルは大学の授業に通じる内容

であるとの回答が大多数であった(23名)。

Q. 出題内容について、大学の授業で学習する英語力に通じている点、もしくは通じていない点とその理由を教えてください。(※自由記述)

文章の内容と扱っている単語が通じているというコメントがあった。

- 授業に似通った題材の文章が存在した。(S20)
- 学生に合った内容で解きやすかった。(S28)
- 扱った単語が出ている点は大学の授業で学習する英語力に通じていると感じる。(S12)

通じていない点は、文法の扱いであった。

- リーディングは細かい内容を問う問題や文法問題はほとんど大学で扱っていないため。(S27)
- あまり文法のような問題を大学では解かないので、受験英語のように感じた。(S9)

そのほか、テストの環境が授業での学びとは異なるという意見があった。

- 辞書が使えない点に通じていないと思う。(S6)
- 時間制限がある中でやる点が違う。(S21)
- 速読する機会があまりないから、受験期に比べて読むスピードがすごく落ちた。(S15)

Q. 出題レベルについて、大学の授業で学習する英語力に通じている点、もしくは通じていない点とその理由を教えてください。
（※自由記述）

問題のレベルは似ているという声が多かった。

- 出題レベルは通じていると思う。(S5)
- 授業と同レベルの問題が出題されるように感じた。(S20)
- 文章の難易度は同じくらいであったと思う。(S21)

前出の質問と同様、語彙についても同レベルとの回答があった。

- 大学レベルの単語が出てきていた。(S18)

違いについては、前出の質問と同様、テストの環境に由来するものであった。

- 時間が決められており、自分のペースで解けない点が違うと思う。(S6)
- 大学の英語は基本的にテストでなければ時間をかけていいので通じていないと思った。(S4)

大学で学ぶ EAP および実際の勉強や研究で使う英語においては、時間制限があることは少なく、また授業においては辞書の使用や自分のペースでの読解を推奨することも多いため、授業での学習環境とテスト環境の違いを顕著に感じたようである。

表3 Q.今回受験したテストについてよかったと感じた点を教えてください。(※複数回答)

	回答数
コンピューター上で受験できる （筆記用具が不要）	15
ヘッドセットを着用して受験できる （集中して受験できる）	5
自身のペースで解答できる（R が終わり次第Lへ進める）	7
試験が短時間で終了する	9
受験手続きが簡単	8
解答の操作が簡単	10
出題内容が大学生活に役立ちそう	0
出題内容が大学の授業に役立ちそう	1
出題内容が就職してからも役立ちそう	0
出題内容が留学に役立ちそう	1
その他	0
総計	56

学生がテスト対策をして臨んだものではなく、短時間のテストを1回受験することでは大学の授業・就職・留学といった将来に役立つと感じる学生は少なかったようである。一方で、コンピューターでの受験、操作が簡単、試験が短時間といったテストとしての利便性に対する評価が高かった。以上の結果に鑑みると、本試験はプレイメントや効果測定により適したテストと推測される。

<結論と今後の課題>

大学の Reading & Writing クラスの学生の EAP 能力との相関を検討した結果、TEAP プレイメントテスト（仮称）を EAP 能力の測定に使用できる可能性が示唆されたと言える。今後は、今回使用したような授

TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）共同研究

業内テストだけではなく、異なる観点からの EAP 能力指標を使用し、より多くの参加者のデータを用いて、TEAP プレイACEMENTテスト（仮称）スコアと EAP 能力の相関関係を検証し、本テストが EAP 能力測定に使用できるかについての研究を進めることが望まれる。

<参考文献>

- 一般社団法人大学英語教育学会 EAP 調査研究特別委員会. (2018). 「大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム実態把握調査」研究成果最終報告書（2014 年度～2017 年度）. https://www.eiken.or.jp/center_for_research/pdf/bulletin/vol99/vol_99_17.pdf
- 日本英語検定協会. 「TEAP について」 <https://www.eiken.or.jp/teap/>
- 山西博之・大野真澄. (2017). 「要約指導を補助するツールとしてのルーブリックの活用」 水本篤（編著）『ICT を活用した英語アカデミック・ライティング指導—支援ツールの開発と実践—』（pp. 92-106）. 金星堂.